



サポチル関東 主催

子どもの精神分析的心理療法・臨床セミナー In 関東2020

サポチル関東が発足して4年間、臨床セミナーでは、現場のニーズに応えることを目的にセミナーを行ってまいりました。5年目は、理論と実践をつなぐセミナーを企画いたしました。クラインをはじめとする、ウィニコット、ビック、メルツァー、タスティン、アルヴァレスといった、子どもの精神分析を発展させてきた先人たちは、自身の臨床経験に基づき、独自の観点から理論を発達させました。先人たちの理論は私たちの実践を助けてくれますが、それが生きてくるかどうかは、私たちの用い方次第だと言えるでしょう。

本セミナーでは、経験豊かな先生方に、各理論についての概説とご自身の事例の経験を語っていただくことで、理論と実践がいかに有機的につながり、現場に生きているのかを提示していただきます。先生方の経験と対話できる貴重な機会となるでしょう。また、講師と臨床セミナー参加者の対話がより活発に行えるよう、各回で話題提供者としてサポチル専門会員が橋渡し役を務めます。

2020年度 臨床セミナー

事例から学ぶ子どもと青年の心理療法 —理論と実践の架け橋—

第1回 2020年4月12日(日)

「事例から学ぶクライン理論と実践—分裂機制の現代的な意義—」

講師: 松本 拓真 先生

話題提供: 吉沢 伸一 先生

第2回 2020年6月14日(日)

「事例から学ぶメルツァー理論と実践—閉所理論と現代の思春期心性をめぐって—」

講師: 飛谷 渉 先生

話題提供: 中岡 裕美 先生

第3回 2020年8月9日(日)

「事例から学ぶウィニコット理論と実践—治療的コンサルテーションと移行領域での関わり—」

講師: 奥寺 崇 先生

話題提供: 廣内 雄一郎 先生

第4回 2020年10月11日(日)

「事例から学ぶビック理論と実践—乳幼児観察の臨床的応用と心的皮膚の臨床的意義—」

講師: 福本 修 先生

話題提供: 上田 順一 先生

第5回 2020年12月13日(日)

「事例から学ぶタスティン理論と実践—自己意識性の苦悩をめぐって—」

講師: 平井 正三 先生

話題提供: 小笠原 貴史 先生

第6回 2021年2月14日(日)

「事例から学ぶアルヴァレス理論と実践—発達心理学と精神分析の交差—」

講師: 脇谷 順子 先生

話題提供: 長谷川 昌子 先生

対象者: 臨床心理士、公認心理師、医師、それに準ずる専門家、大学院生・研修生

定員数: 70名

受講料: 40,000円(全6回)

会場: 大妻女子大学千代田キャンパス(予定)

時間: 13時~16時45分 (前半【講義】、後半【講師の事例提示】)

* 緊急時の連絡に関する記載が本案内の最後に記載してありますので、ご確認下さい。

セミナー内容

第1回「事例から学ぶクライン理論と実践—分裂機制の現代的な意義」

講師: 松本 拓真 先生

クラインの業績は、子どもの精神分析的遊戯技法の確立や、乳児の心や精神病的な心性の理解など様々ですが、私は特に分裂機制に焦点を当てたいと思います。私たちの心の中には様々なパーソナリティが同居し、時と場合によって多様な心の状態が現れますが、自分自身とのつながりが乏しくなることで空虚さ・自分が自分でない・解離・自閉といった現代的な問題を生じさせます。クラインの業績を私の事例と重ねながら、これらの問題を理解するヒントを探求したいと思います。

【参考文献】 Klein, M.(1946): 分裂的機制についての覚書 (In『メラニー・クライン著作集4: 妄想的・分裂的世界』誠信書房)

第2回「事例から学ぶメルツァー理論と実践—閉所理論と現代の思春期心性をめぐって」

講師: 飛谷 涉 先生

メルツァーの「閉所」は、ピオンの意味生成における「コンテナ」のネガである。閉所にいる主体は、空想において内的対象の内部に侵入することで、羨望体験を回避し食欲を実現するが、代償として世界内存在としての実感を失い、偽物感覚と閉所恐怖を伴って、「生のようなもの」を生きることを強いられる。「知ること」は「情報収集」となり、理解は「暴くこと」などとして体験される。閉所概念は、摂食障害や倒錯嗜癖などの病理の理解はもちろん、ネットやSNSに依存する現代の思春期心性を理解する鍵を提供する。

【参考文献】 Donald Meltzer; 'The Claustrom: An investigation of claustrophobic phenomena.' Karnac. London

第3回「事例から学ぶウニコット理論と実践—治療的コンサルテーションと移行領域での関わり」

講師: 奥寺 崇 先生

今回はウニコット理解と一緒に挑戦したいと考えます。前半では移行対象の概念を中心に基礎的な考えから、臨床的なアプローチについて概説し、後半は自験例ではなく、晩年の著書『ピグル』を取り上げます。それはピグルを「読む」のではなく、この症例について今の私達がそれぞれの臨床の現場でどのように理解し、扱うか、について批判的意見も交えて相互的に検討し、考えを深めたいと思います。

【参考文献】1. ウニコット「第1章: 移行対象と移行現象」、「第4章: 遊ぶこと—創造的活動と自己の探求」 In『遊ぶことと現実』岩崎学術出版社、2. ウニコット『ピグル—ある少女の精神分析的治療の記録—』岩崎学術出版社

第4回「事例から学ぶビック理論と実践—乳幼児観察の臨床的応用と心的皮膚の臨床的意義」

講師: 福本 修 先生

Esther Bickは、精神分析的なトレーニングに乳児観察を導入したこと、そして最早期の不安と防衛を理解したことで知られている。講義では、彼女の生涯と業績で知られていることを紹介しつつ、乳児観察の実例および現代の自閉スペクトラム論や心的次元論に通じる問題圏について、臨床例を参照しながら考察したい。

【参考文献】1. 福本修(2002): 次元性から見た心的機能の臨床的展開とその治療過程、精神分析研究 46(4), 405-414
2. 山上千鶴子のホームページより、エスタ・ビック (Esther Bick; 1902-1983) の遺産 (<http://www.chiz-yamagami.com/intro.html>)

第5回「事例から学ぶタスティン理論と実践—自己意識性の苦悩をめぐって」

講師: 平井 正三 先生

フランス・タスティンは自閉症の子どもとの精神分析実践と研究で知られており、その影響は英国にとどまらず、世界中の精神分析臨床家に多大な影響を与えています。本セミナーでは、自閉症にとどまらず、人が自己意識を立ち上げていく際の苦悩という普遍的な問題群に彼女の仕事は関わっていることを示していきたいと思います。

【参考文献】1. タスティン『自閉症と小児精神病』創元社、2. 平井正三『精神分析的な心理療法と象徴化—コンテインメントをめぐる臨床思考』岩崎学術出版社、3. 平井正三『意識性の臨床科学としての精神分析—ポスト・クライン派の視座』金剛出版

第6回「事例から学ぶアルヴァレス理論と実践—発達心理学と精神分析の交差」

講師: 脇谷 順子 先生

アルヴァレスにとって、臨床も理論も生きもののようなものである。アルヴァレスは、目の前の子どものこころの世界を知っていくために、精神分析理論や発達理論を活用している。そして、子どものこころと、子どもとセラピストのやりとりが生きたものとなることを目指している。映画、小説、音楽などにも広く関心をもつアルヴァレスの創造性、さらには人の権利についての考えも学ぶ機会としたい。

【参考文献】アルヴァレス著『子どものこころの生きた理解に向けて』(2017年 金剛出版)

◆セミナー講師のご紹介(五十音順)

奥寺 崇 先生

群馬大学医学部卒業後、同附属病院助手、医学部学内講師。その間Menninger School of Psychiatry、Tavistock& Portman NHS Trustに留学、帰国後、赤城高原ホスピタル副院長、国立精神神経センター武蔵病院医長を経て、世田谷経堂にて開業。国際精神分析協会会員。

飛谷 渉 先生

大阪市立大学医学部医学科卒・同大学院卒。精神科医、医学博士。2004-2008年タヴィストック青年期部門留学。大阪教育大学保健センター准教授。日本精神分析学会認定スーパーバイザー。著書「精神分析たとえ話:タヴィストック・メモワール」、訳書「新釈メラニー・クライン」など。

平井 正三 先生

京都大学教育学部博士課程指導認定退学、1990年～1997年タヴィストック・クリニック児童家族部門留学、児童青年心理療法士資格取得。京都光華女子大学助教授などを経て、御池心理療法センター代表、大阪経済大学客員教授、認定NPO法人子どもの心理療法支援会理事長。

福本 修 先生

東京大学医学部医学科卒業。タヴィストック・クリニック(ロンドン)M1成人精神分析的精神療法部門修了。恵泉女学園大学名誉教授、代官山心理・分析オフィス、日本精神分析学会認定スーパーバイザー、日本精神分析協会訓練分析家。

松本 拓真 先生

岐阜大学教育学部助教。サポチル認定「子どもの精神分析的な心理療法スーパーバイザー(コンサルタントセラピスト)」。近著「自閉スペクトラム症を抱える子どもたち:受身性研究と心理療法が拓く新たな理解」(金剛出版)。

脇谷 順子 先生

2000年～2011年タヴィストックセンター児童家族部門留学、2009年児童青年精神分析的な心理療法士資格取得、2014年児童精神分析的な心理療法専門家博士号取得。杏林大学保健部、認定NPO法人子どもの心理療法支援会理事。

◆サポチル関東の紹介

現在、サポチル関東は、以下の専門会員メンバーで運営しております。

関東理事: 脇谷順子

関東事務局: 上田順一

臨床セミナー担当: 小笠原貴史 中島良二 廣内雄一郎 吉沢伸一

研修プログラム担当: 中岡裕美 長谷川昌子

(五十音順)

◆サポチル認定資格関連(関東)

・子どもの精神分析的な心理療法指定スーパーバイザー(コンサルタント・セラピスト)

脇谷順子

・子どもの精神分析的な心理療法特別指定スーパーバイザー

奥寺崇 木部則雄

・子どもの精神分析的な心理療法士

小笠原貴史 熊田知佳 吉沢伸一

(五十音順)

セミナー申込について

■定員数: 70名

■対象者: 臨床心理士, 公認心理師, 医師, それに準ずる専門家, 大学院生・研修生

■受講料: 40,000円

■ 申込み方法

1. 以下の手順に従い、メールにてお申し込みください。

タイトルを「2020サポチル関東・臨床セミナー参加申込」とし、以下の必要事項を記載し、サポチル関東事務局宛て「info-kanto@sacp.jp」にメールを送ってください。

◆必要事項: ①氏名(ふりがな)、②所属、③職種(臨床心理士、公認心理師、医師、大学院生・研修生、その他)、④E-mail アドレス(携帯アドレスは不可。緊急時に確認可能なアドレス)



2. 参加申込メールの確認後、事務局より、「申込受付メール」にて振込先口座および振込期日をお知らせします。

◆お振込 受講料40,000円

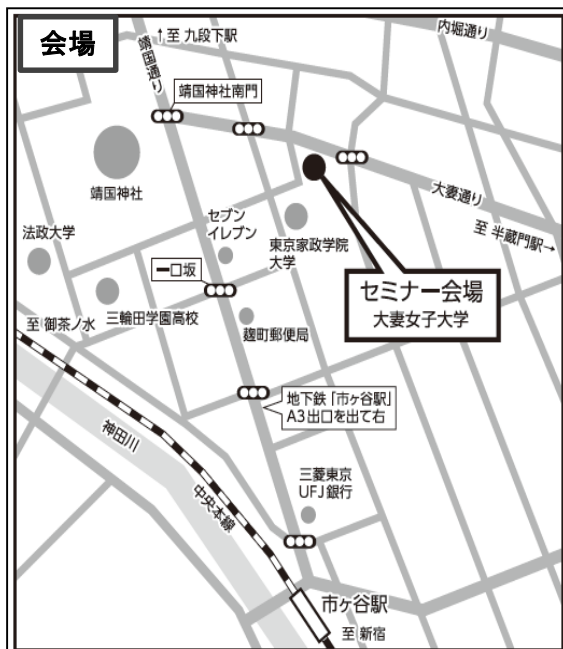
※振込期日を過ぎた場合は、お申込みはキャンセルとして取り扱わせていただきます。

※お振込み後、受講生の事情でキャンセルする場合、受講料の返金には応じられません。



3. 事務局より、「振り込み確認+受講受理完了メール」を送信します。

申し込み締め切りは2020年2月29日(土)



お知らせ

お問い合わせ先: info-kanto@sacp.jp

◆専門会員・賛助会員・ボランティア会員の募集

サポチルの事業推進に関わり、企画運営する各種活動にご協力いただける方を募集しています。申込方法はHPをご覧ください。

◆2020年度開催: 各種研修プログラムについて

【文献講読】

- ・フロイト講読セミナー(奥寺崇先生) **NEW**
- ・ビオン講読セミナー(平井先生先生/飛谷渉先生)

【乳幼児観察】

- ・乳幼児観察セミナー(脇谷順子先生) **NEW**

【スーパーヴィジョン】

- ・グループ・スーパーヴィジョン(奥寺崇先生) **NEW**

【ワークショップ】

- ・親面接ワークショップ(津田真知子先生/脇谷順子先生)

* 詳細および申込方法については、別途案内をご覧ください。
* サポチル関東のTwitterでも随時研修情報を発信しています。
* いずれの研修プログラムもサポチル専門会員が優先されます。

◆研修ポイントについて

本セミナーは、日本臨床心理士資格認定協会の「定例型研修会(4ポイント)」として承認されています。7割以上出席の方に「研修証明書」をお渡しいたします。

◆緊急時の連絡について

自然災害などにより、セミナーを中止(延期)せざるを得ない事態が生じる場合があります。当日午前7時までには、開催の可否を事務局からメールでお知らせさせていただきます。なお、一斉メールが届かない場合もありますので、サポチル関東のツイッターでもお知らせ致します。必ずご確認下さい。

(セミナー申込時に必要なメールアドレスは可能な限り、普段確認できる連絡先にさせていただけると助かります。)